

地元を熟知した対応がとれたか。洋式トイレ設置状況はどうか。

市議会災害対策特別委員会で7月豪雨対策などの質問展開

災害対策特別委員会が4日開催されました。今回の委員会は先月上旬の大雨災害についての総括の場。防災危機管理部長から今回の水害全般の状況説明が行われ、市としての総括が示された後、質疑が行われました。

私はこの間の関係職員の努力を評価したうえで、水防情報についての市と県との共有・連携、指定避難所における洋式トイレの設置、農地の維持に係わりがありながら、行政から災害復旧の支援を受けられないケースの対応などいくつかの問題点、課題について指摘し、改善を求めました。

このなかで体制の問題として、警戒対策本部や対策本部を設置し

た時の休日、夜間のあり方として、木田庁舎であるのが総合事務所であろうが正面玄関を開けておくべきだが、実態はどうだったかと質問。木田庁舎については開けておいたこと、総合事務所など14か所については7か所が開け、6か所では案内表示を出しながら、「夜間・休日出入り口」を使ったと答弁がありました。今後、どうなるか注目です。また地元で熟知した職員配置、職員づくりが課題だった点もチェックするよう求めました。

洋式トイレが設置されている避難所は107か所、設置率は83%であることが明らかにされました。私は残っているか所について、早急に、計画的に整備するよう訴えました。防災危機管理部長は、「お金がかかる問題であるので、和式トイレを洋式化して使うと答えました。」

また、比較的大きな規模の土砂崩れが畑のそばで発生しているにもかかわらず、災害復旧は行政からの支援を受けられないケースがあることを紹介し、制度の弾力的な運用をするか、それができない場合は新たな救済の仕組みづくりを国、県に働きかけるよう求めました。担当課では、「治山事業などの可能性を探ってきたが、むずかしい」と答えていましたが、なんとか援助の手を差し伸べてほしいものです。



【ウバユリ】ユリ科の多年草。漢字で「姥百合」と書きます。いま、山地のあちこちで緑白色の花を咲かせています。写真の花はクズの葉にからまれて身動きできなくなっているウバユリ。柿崎区の東横山にて撮影。

指定避難所洋式トイレ設置状況

		施設		避難スペース	
		○	×	○	×
市立 小中学校	数	61	0	42	19
	%	100%	0%	69%	31%
その他	数	65	3		
	%	96%	4%		
全体	数	126	3	107	22
	%	98%	2%	83%	17%

◎避難スペースの洋式トイレの有無・・・避難所として鍵を開けた際に使えるトイレの中に洋式トイレがあるかどうか。

◎学校…体育館のトイレは和式のみだが、校舎にはある → 避難スペース…「×」、施設…「○」

◎公民館など…正面の鍵で施設全体が使える場合 → 避難スペース…「-」、施設…「○」



※指定避難

また、比較的大きな規模の土砂崩れが畑のそばで発生しているにもかかわらず、災害復旧は行政からの支援を受けられないケースがあることを紹介し、制度の弾力的な運用をするか、それができない場合は新たな救済の仕組みづくりを国、県に働きかけるよう求めました。担当課では、「治山事業などの可能性を探ってきたが、むずかしい」と答えていましたが、なんとか援助の手を差し伸べてほしいものです。

市民意見をお聴きする会

24日（木）午後7時から

日本共産党議員団では今月24日（木）午後7時から市民プラザ第2会議室において、「市民意見をお聴きする会」を開催します。お寄せいただいた声は9月議会に反映させます。ぜひお出かけを。

No.1819 2017.8.13

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL http://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

はしづめ法一の
活動レポート

春よ来い

第四六七回 いつもと変わらず

若くして連れ合いを亡くした人は悲しみをどんなふうにして乗り越えていくのでしょうか。八月の猛烈に暑い日の午前、軽のオープンカーに乗った一人の男性が長野県から山を越え上越市に入ってきました。

その男性は、岐阜県本巣市に住んでいる元会社員のトシヒコさんです。年齢は六〇代半ばといったところでしょうか。頭には白いものが混じってはいますが、髪は刈り上げてあり、キリリとしています。一見してスポーツマンといった感じでした。

トシヒコさんは二年前の八月にお連れ合いのM子さんを病気で亡くしました。まだ五九歳という若さでした。M子さんは安塚区の山間部出身の人で、三人姉妹の末っ子でした。この日、トシヒコさんはM子さんの実家を目指して来ていたのです。

私とトシヒコさんととは初対面でした。でも、市内のお店でトシヒコさんと偶然会ったとき、私は、初対面という気がしませんでした。ニコニコして挨拶する姿は人懐こくて、かなり前からの知り合いのような錯覚を起こしそうでした。じつは、これまで私は、M子さんのお姉さんから、トシヒコさんのことを何度か聞いていたのです。

M子さんが亡くなる一、二年前だったと思います。三人姉妹がそれぞれの連れ合いとともに本巣市に集まりました。本巣ではみんなで酒を飲み、美味しいものを食べ、楽しいひと時を過ごしたということでした。そのときもトシヒコさんは会を大いに盛り上げていたといえます。

トシヒコさんと会った翌々日、M子さんのお姉さんから、いろいろ聞きました。トシヒコさんは車を二台所有していて、そのうちの一台のナンバーは「319」。この数字は二人の結婚記念日の月日そのものだというのです。また、携帯電話の待ち受け

画面にはM子さんの写真を使っています。さらに、M子さんが亡くなってからは、ほぼ毎日、お墓参りをしているというのです。ここまで徹底している人、めったにいませんね。

愛妻家ぶりを聞いた日、私は、M子さんが亡くなった年の年末にトシヒコさんがフェイスブックで発信した黄色い花の写真とコメントを見て胸が熱くなりました。「正月の買い出しから帰ってきて、ふと庭を見ると、亡き妻が植えたと思われる花が

日も当たらないのにきれいに咲いており、心む思いがしました」とあったのです。花はプリムラジュリアン。娘さんの「かわいい花だね」というコメントには、「お母さんのように」と返していました。

さて、トシヒコさんが安塚にやってきた日の夜のこと、M子さんの実家に泊めてもらうにあたり、トシヒコさんは、「枕だけ貸して」と言いました。なんと、トシヒコさんは車に積んでいた寝袋を出して来て、それを使ったというのです。連れ合いの実家に少しでも迷惑をかけたくないという思いがあったのでしょうか。

M子さんが亡くなってからトシヒコさんがM子さんの実家を訪れたのは今回で二回目。実家の人たちは、M子さんが生きていたときと同じように、安塚にやってきて、お墓参りをし、一晩泊まって帰るトシヒコさんの姿を見て、「亡くなってもいつもと変わらない」と喜んでおられました。

私は、この話を聞いたとき、この「いつもと変わらない」ということがとても大切なことだと思えました。トシヒコさんが帰る日の朝、八九歳になるM子さんのお母さんは赤飯を蒸かし、おにぎりにして、お土産に持って行ってもらったとか。これもいつもと変わらないことでした。

猛暑の夏、市内各地で夏まつり賑わう

8月5日、6日の土日は柿崎区、浦川原区、吉川区、三和区、安塚区など市内各地で夏まつりが取り組まれました。

このうち吉川区では越後よしかわ

やったれ祭りが行われました。五穀豊穰を祈るこの祭は今回で19回目。ペットボトルを使った手づくりの竿灯がきれいで、今回も市内外から写真愛好家がたくさんやってきました。太鼓集団のリードで盛り上がる神輿行列は何度も繰り返され、熱を帯びました。

閉会式で「豊作じゃあ」を三唱するとともに、各神輿の代表者が壇上に上がり、「きょうは最高に楽しかった」「この祭をいつまでも残したい」などとのべました。それがさらに大きな盛り上がりをうみ、祭は終わりそうもない感じになりました。すごい祭りになってきました。

安塚区の歩行天まつりも賑わいました。猛暑の中、全国各地からディーゼルエンジンを持ちこむ人が多く、それを楽しみに出かける人が少なくありません。かくいう私もわが家で使ったことのあるヤンマーのディーゼルエンジンを見たいと思っ



出かけました。わが家のものよりも年代の古いのが多かったですね。暑さが厳しく、私は姉さかぶりをしながら動きました。安塚区の総合事務所長さんも私が誰かわからなかったようです。会場では丸太切りの真っ最中、着物姿の女性の頑張りが目立ちました。皆さんご苦労様でした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月2日(水)	8月9日(水)
上越南消防署	0.040	0.047
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.057	0.047
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.057